

●1. 人生の時期区分

- a. 青年期（若者期）＝若い春：人生の四季＝ [ ] [ ] [ ] [ ]  
cf. D.J. レビンソン『ライフサイクルの心理学』
- b. 「20世紀の発見」（山口昌男）＝ [ ] / [ ] / 青年期＋老年期
  - 青年期の発生：経済生産性の拡大＋教育の必要性 / 高学歴＝長学歴？
  - 老年期の発生：経済生産性の拡大＋医学の進展 / 農民から被用者へ＝定年
- c. 人生50年時代→人生80年時代（90年？）：寿命の伸び→青年期の位置と意味の変化
  - ①ゴムひも仮説：人生課題の薄まり
  - ②成熟社会化仮説：早熟な視野

●2. 人生の中の周期性・規則性への着目

- a. 「 ( ) 」  
…多くの人の一生の生活に繰返し見られる規則的な推移現象  
世代間の規則性…世代ごとの変化に関心 / 世代内の規則性…意外な共通性に関心

①「貧困線(poverty line)」研究…B.S. ラウントリー(1871-1954)『貧乏研究』

1899年 英・ヨーク：労働者の一生の経済的浮沈をまとめる

1)「第1次貧困線」…総収入が家族の単なる肉体的能率保持にも足りない状態

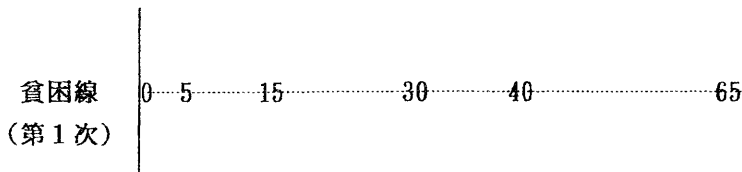
「第2次貧困線」…他の支出に振り向けられてしまうと、総収入が単なる肉体的能率保持に足りない状態

→第1次貧困9.91%＋第2次貧困線17.93%＝貧困者総数27.84%

⇨最低生活費研究への影響

2)人生の中で貧困線をめぐる下降と上昇の規則的な周期

⇨家族の一生を段階的にみていく発想の形成



②「E.H. (1902-1994) ライフサイクル論の整備←フロイト発達論の洗練

自我の幼児期決定論を批判し、生涯にわたる自我の成長・変化に着目

＝8つの「 ( ) 」ごとの心理・社会的危機＝次の段階に飛躍するための転機

…危機の否定的な要素を上回る肯定的な要素を獲得したときに問題解決

生物学的過程・心理的過程・共同的過程が組合わさって達成

→アイデンティティの統合性への強い関心 / 若者反乱の時代（60年代）と呼応

主著：『幼児期と社会』『アイデンティティ—青年と危機』『老年期』／  
『青年ルター』『ガンディの真理』／『玩具と理性』『洞察と責任』…

b. 家族への応用—家族周期論（ ）：段階設定法 [森岡清美]

…教育・職業・婚姻などのライフイベント経験時期の標準モデルを想定し、段階化

- |              |             |
|--------------|-------------|
| I. 新婚期 …     | V. 第1 排出期…  |
| II. 育児期 …    | VI. 第2 排出期… |
| III. 第1 教育期… | VII. 向老期 …  |
| IV. 第2 教育期…  | VIII. 退隠期 … |

…段階ごとに異なる家族内地位と取り組む役割の変化＝「  
段階の推移において新たな課題への適応や役割構造の修正＝危機的移行

c. 現代日本での主な変化…イベント年齢比較法による実証研究

- 1) 「  
」の大幅な短縮／「  
」は見合って短縮しない。
- 2) 老年期夫婦のみ世帯の長期化  
…「  
（  
）」 cf. 子ども世帯との距離：同居・近居・遠居
- 3) 老年期ひとり暮らしの一般化